

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：5月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: contact@apir.or.jp

ポイント

●6月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

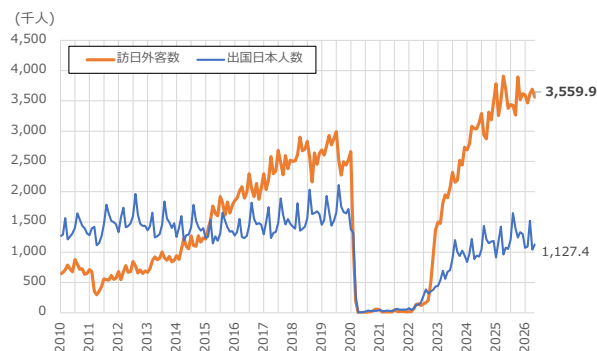
▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、5月の訪日外客総数(推計値)は355万9,900人であった。前年同月比-3.6%、2カ月連続のマイナス。中国政府の渡航自粛要請による中国人客減少の影響が続いている。また、同月の出国日本人数は112万7,400人。同+4.7%と3カ月連続のプラスとなった。なお、19年同月比では-21.6%と前月の同-37.5%からマイナス幅は縮小したが、回復ペースは緩慢である。

▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、5月は韓国が95万1,300人(前年同月比+15.2%)と最多で、昨年11月以降、中国の水準を上回っている。次いで台湾が61万6,800人(同+14.6%)、米国が33万3,700人(同+7.0%)、中国が31万3,000人(同-60.4%)、香港が20万7,900人(同+7.7%)と続く。日中関係悪化の影響もあり中国人客は6月連続で大幅減少した。なお、中東地域は3万9,000人で同+67.8%、4カ月ぶりの増加となった(前月：同-21.4%)。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(表5)、3月は361万9,159人となった。前年同月比+3.5%、2カ月連続のプラス(前月：同+6.4%)。うち、観光客は322万1,476人で、伸びは同+2.3%と2カ月連続のプラスとなった(前月：同+8.5%)。また、その他客は29万5,455人、商用客は10万7,138人であった。伸びをみればその他客は同+21.6%で、2カ月ぶりのプラス。一方、商用客は同-2.0%と、2カ月連続のマイナスとなった。

▶7月10日に政府は『令和8年版観光白書』を閣議決定した。今月号のトピックスとして、第I部の第3章『『働いてよし』の観光産業の実現に向けて～宿泊業の人材確保と生産性の向上～』の内容を取り上げ、その特徴を紹介する。観光庁が全国の宿泊施設に対して人手不足や収益に関するアンケート調査を実施した結果、全体として72.2%が人手不足の状況にあるとの結果となった。こうした課題解決のために、白書では人材確保、労働環境の改善や労働生産性の向上を進めている宿泊施設の事例が取り上げられている。特徴的なのは、1) 生成AIを活用したマーケティング、2) 観光需要の繁閑差を活用した観光人材の交流など、新たなビジネスモデルへの取組である(図3)。こうした事例が積極的に展開されることでDX投資が推進され、収益および生産性を高められれば、賃金や待遇の一層の改善につながろうとしている。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移

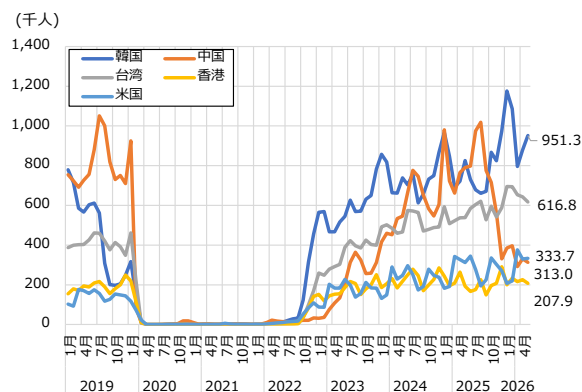


注：2024年まで確定値、25年、26年2-3月は暫定値。

2026年4-5月は推計値

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している

出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図3 宿泊業の生産性改善と人材確保に向けた取組事例

課題カテゴリ	課題への対応策	地域事例	
		事例の実施主体	取組概要
労働環境 生産性	就労待遇・収益性の改善	株式会社ホテル末広	週休3日の固定休館日の導入と業務のマルチタスク化
生産性	DX投資の推進とその成果の事業者への共有	熱海市役所	生成AIを活用したマーケティング及び情報発信と地域事業者への分析レポートの共有
人材確保 生産性	地域内の観光人材育成のためのプログラムの実施	黒川温泉観光旅館協同組合	地域一体での次世代リーダー育成プログラム「黒川塾」と採用活動の展開
人材確保 生産性	繁閑期における人員調整と併せた人材育成の実施	一般財団法人奈良県ビジネスタースビューロー	地域間における需要の繁閑差を活用した観光人材の交流

出所：観光庁『令和8年観光白書』より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

● 5 月関西の財貨・サービス貿易の動向

▶ **関西 5 月の輸出額は**前年同月比+19.3%と **20 カ月連続の増加**、3 カ月連続で 2 桁の伸びを記録した。世界的な AI 需要の拡大もあり、アジア向けの半導体関連輸出が好調であった。また、**輸入額は**同+11.8%と 4 カ月連続の増加。結果、**関西の貿易収支は**+3,096 億円と **16 カ月連続の黒字**(図 4)。輸出、輸入ともに増加したが、前者の伸びが後者の伸びを上回ったため、**黒字幅は**前年同月比+92.6%拡大した。

▶ 対中国貿易動向をみると(図 5)、**関西 5 月の対中国輸出は**前年同月比+28.5%と **3 カ月連続で増加**した。輸出増に寄与したのは、半導体等電子部品や原料品等であった。また、**対中国輸入は**同+3.9%と **7 カ月連続の増加**。輸入増に寄与したのは無機化合物や重電機器等であった。

▶ **5 月の関西国際空港**(以下、関空)への**訪日外客数は 80 万 6,135 人**であった(図 6)。前年同月比-15.5%と 6 カ月連続で減少し、且つ 2 カ月連続で 2 桁のマイナスとなった(前月：同-17.2%)。中国人客の渡航自粛の長期化が、外国人入国者数増加の下押し要因となっている。日本人出国者数は 21 万 4,289 人であった。前年同月比+5.5%と 3 カ月連続の増加。なお、2019 年同月比では-24.4%と依然低迷している。

▶ 日中関係悪化及び中東紛争が関空の訪日外客数に与えている影響を別データから確認しよう。図 7 は関西エアポートが公表した方面別国際旅客数の前年同月比の推移を示したものである。中国方面をみれば、日中関係が悪化した 2025 年 11 月に前年同月比+24.3%と前月(同+48.9%)から増加幅が縮小し、12 月には同-39.2%と大幅減少に転じた。以降、2 桁を超える減少が続いており、足下 26 年 5 月は同-59.6%と依然回復の見通しが立っていない状況である。また、その他(北米・欧州・中東)方面をみれば、中東方面は米国とイスラエルによるイラン攻撃の影響もあり、26 年 3 月に同-21.0%と大幅減少し、4 月には同-29.8%と減少幅は拡大した。5 月には同地域における主要な空港機能が幾分回復したこともあり、同-19.9%と減少幅は縮小した。ただし、依然として中東情勢の不確実性は高く、航空便の運休・減便に加え、原油高による航空運賃の上昇などが、先行きの訪日外客需要の下押しリスクとなる。

*今月号ではレポートの公表日の都合により、5 月の「第 3 次産業活動指数」を取り扱わなかったことにご留意いただきたい。

図 4 関西 対世界貿易の推移

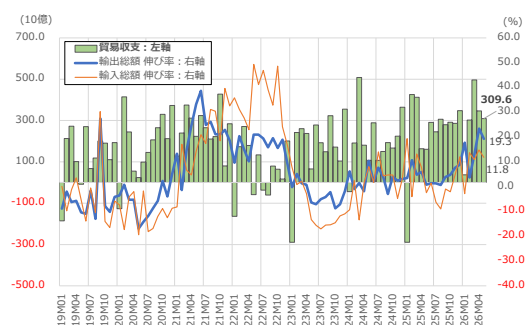
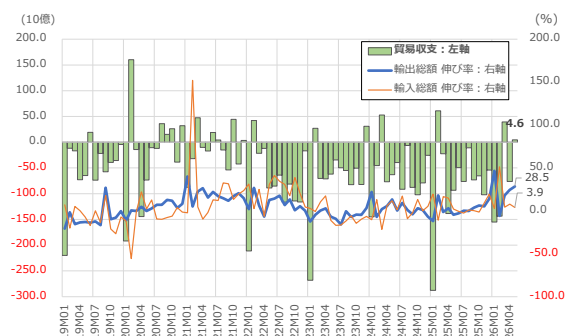


図 5 関西 対中貿易の推移



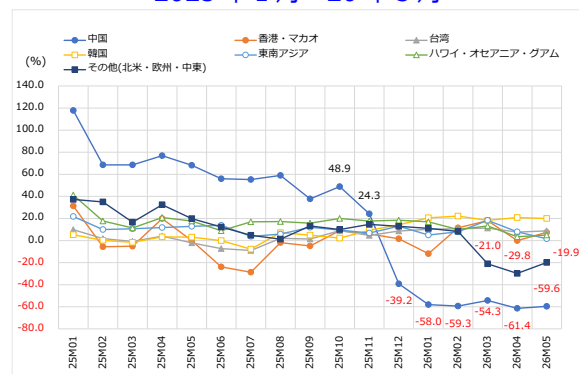
出所：『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』
より筆者作成(図 4～5)

図 6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。
2026 年 5 月値は速報値

図 7 関空における方面別旅客数の推移：
2025 年 1 月～26 年 5 月



出所：関西エアポートプレスリリース資料より筆者作成

トピックス 2

●3月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、3月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,367.1千人泊**(表1)。**前年同月比-6.3%**と**6カ月連続で減少**し、減少幅は前月の同-3.9%から拡大した。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,630.3千人泊**となった。**前年同月比-7.1%**と**6カ月連続で減少**した(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府2,454.8千人泊と最も多く、次いで、兵庫県1,281.0千人泊、京都府1,243.0千人泊となった。また、三重県826.6千人泊、滋賀県420.5千人泊、和歌山県405.2千人泊、福井県288.8千人泊、鳥取県256.7千人泊、奈良県243.8千人泊、徳島県210.0千人泊であった。関西3月の**前年同月比(-7.1%)に対する寄与度**をみれば、**減少に寄与**したのは、**大阪府(同-6.7%ポイント)**、**京都府(同-0.7%ポイント)**、**兵庫県(同-0.5%ポイント)**等の**4府県**であった。

▶外国人延べ宿泊者数は**3,736.8千人泊**であった(表1及び図9)。**前年同月比-4.6%**と**9カ月連続で減少**した。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府1,923.0千人泊、京都府1,359.2千人泊と2府への集中が続いている。また、兵庫県206.3千人泊、和歌山県77.0千人泊、奈良県43.0千人泊、三重県39.0千人泊、滋賀県34.0千人泊、徳島県23.8千人泊、鳥取県22.2千人泊、福井県9.5千人泊であった。関西3月の**前年同月比(-4.6%)への寄与度**をみれば、**京都府(同-5.3%ポイント)**、**大阪府(同-1.8%ポイント)**、**徳島県(同-0.0%ポイント)**と**奈良県(同-0.0%ポイント)**の**4府県が外国人延べ宿泊者の減少に寄与**した。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2026年5月は**76.7**となった。前年同月比-1.3%と38カ月連続の悪化だが、賃金上昇が4カ月連続で3%超となったため、悪化幅は-1%台となった(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

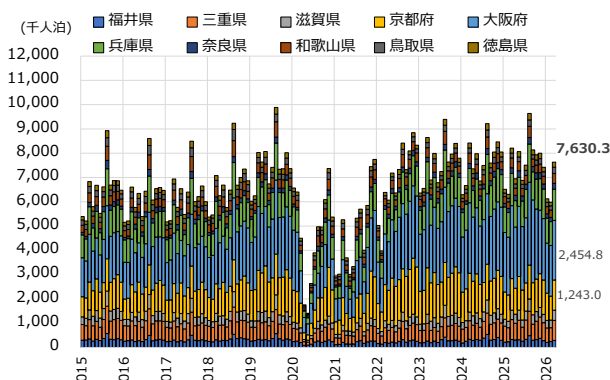


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

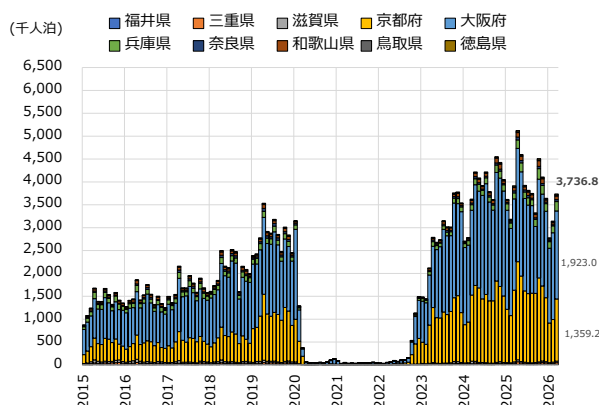
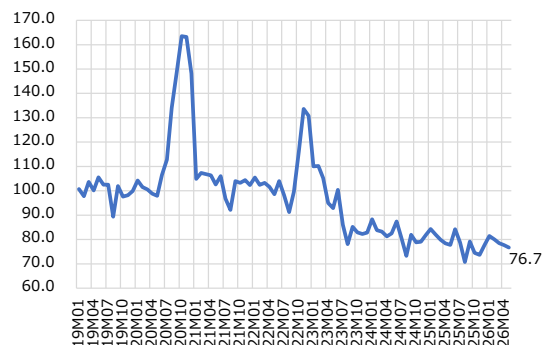


図10 宿泊料金と賃金の交易条件



注：交易条件は賃金(現金給与総額)を宿泊料金(消費者物価)で除した指数。2019年平均を100

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』より筆者作成

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：3月

	総数				日本人				外国人			
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	当月寄与度 (%ポイント)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	298.3	-10.4	-0.3	2.8	288.8	-10.8	-0.4	3.0	9.5	3.6	0.0	-2.4
三重県	865.6	1.4	0.1	0.4	826.6	0.2	0.0	-1.2	39.0	34.9	0.3	61.3
滋賀県	454.5	9.5	0.3	19.2	420.5	8.8	0.4	18.8	34.0	18.2	0.1	24.6
京都府	2,602.2	-9.2	-2.2	-9.6	1,243.0	-4.3	-0.7	-9.3	1,359.2	-13.3	-5.3	-9.8
大阪府	4,377.8	-12.5	-5.1	-6.9	2,454.8	-18.3	-6.7	-12.0	1,923.0	-3.6	-1.8	-0.5
兵庫県	1,487.3	2.2	0.3	-0.6	1,281.0	-3.3	-0.5	-3.7	206.3	56.7	1.9	26.5
奈良県	286.8	1.9	0.0	4.4	243.8	2.6	0.1	6.5	43.0	-2.3	-0.0	-7.7
和歌山県	482.1	0.9	0.0	12.2	405.2	0.3	0.0	9.2	77.0	4.0	0.1	39.0
鳥取県	278.9	34.1	0.6	24.8	256.7	31.3	0.7	19.6	22.2	78.5	0.2	95.4
徳島県	233.7	0.2	0.0	-7.9	210.0	1.0	0.0	-9.2	23.8	-6.6	-0.0	8.6
関西2府4県	9,690.6	-7.7	-6.7	-4.8	6,048.2	-9.1	-7.4	-6.6	3,642.4	-5.1	-5.0	-2.0
関西2府8県	11,367.1	-6.3	-6.3	-3.9	7,630.3	-7.1	-7.1	-5.2	3,736.8	-4.6	-4.6	-1.3
全国	54,414.7	-2.0	-	-0.6	40,134.0	-1.4	-	-1.6	14,280.7	-3.6	-	2.0

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8～9及び表1)

トピックス 3

● 2026 年 1-3 月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

▶観光庁によれば、**2026 年 1-3 月期における関西 2 府 8 県の訪問率**をみると(図 11)、**大阪府 33.2%が最も高く**、次いで京都府 22.0%となっている。また、奈良県 5.9%、兵庫県 4.1%、和歌山県 0.7%、三重県 0.6%、滋賀県 0.6%、鳥取県 0.3%、徳島県 0.2%、福井県 0.2%と続く。前年同期と比較すると(表 2)、大阪府は同-4.5%ポイント、京都府は同-4.7%ポイントといずれも大幅低下となった。また、奈良県同-1.0%ポイント、兵庫県同-0.7%ポイント、滋賀県同-0.0%ポイントとそれぞれマイナス。一方、福井県、鳥取県は同+0.1%ポイントといずれも小幅上昇にとどまった。なお、三重県、和歌山県はそれぞれ横ばいだった。

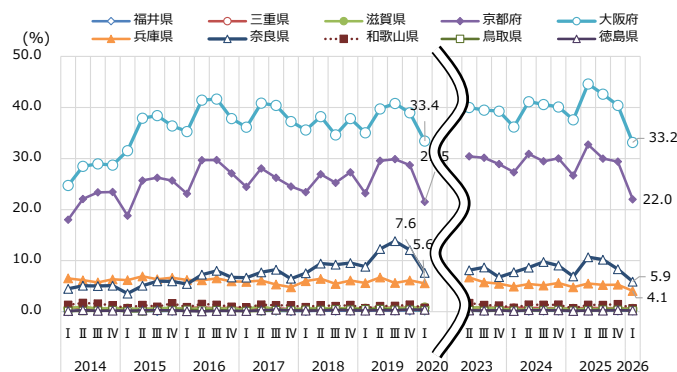
▶当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数をみよう。**2026 年 1-3 月期の訪問者数**を降順にみれば(表 2)、**大阪府 354 万 2,606 人**(前年同期比-10.6%)と**最も多く**、次いで京都府 235 万 2,859 人(同-16.3%)、奈良県 62 万 9,837 人(同-13.5%)、兵庫県 43 万 5,165 人(同-13.7%)、和歌山県 7 万 1,283 人(同+4.8%)、三重県 6 万 3,943 人(同+5.5%)、滋賀県 6 万 3,302 人(同+0.7%)、鳥取県 3 万 1,144 人(同+35.9%)、徳島県 2 万 4,359 人(同+49.6%)、福井県 2 万 2,062 人(同+71.5%)と続く。

▶観光庁によれば、**2026 年 1-3 月期の関西における訪日外国人消費単価**(旅行者 1 人 1 回当たりの旅行消費金額)をみると(表 3)、**関西 2 府 4 県では前年同期比-4.2%と 6 四半期ぶりに減少した**。費目別にみれば、買物代が同-23.6%大幅減少し、4 四半期連続のマイナス。また、飲食費は同-3.1%と 3 四半期ぶりに、娯楽等サービス費は同-7.4%と 5 四半期ぶりにそれぞれ減少となった。

▶観光庁によれば、**2026 年 1-3 月期の関西における訪日外客消費額は 4,658 億円**となり(表 3)、**前年同期比-14.8%**となり、コロナ禍が正常化した 2023 年以降、**初めてマイナスに転じた**(25 年 10-12 月期：同+18.5%)。一方、同期の全国の消費額は 2 兆 3,373 億円、同+2.5%であった(25 年 10-12 月期：同+10.2%)。なお、2025 年における関空の外国人入国者に占める中国人客のシェアをみれば関西は 32.1%と、全国の 21.3%に比して 10.8%ポイント高い。中国人客の訪日旅行自粛の影響が、全国に比べて関西の方に強めに表れたため、関西全体の消費額の伸びは全国のそれを下回った。

*全国の消費額については本レポート No.82 を参照。

図 11 訪日外国人訪問率の推移：関西 2 府 8 県



出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者作成。

表 2 訪日外客の訪問率と人数：関西 2 府 8 県

								単位:%、人
府県ベース	25Q1	26Q1	前年差	府県ベース	25Q1	26Q1	前年比伸び率	
福井県	0.1	0.2	0.1	福井県	12,867	22,062	71.5	
三重県	0.6	0.6	0.0	三重県	60,614	63,943	5.5	
滋賀県	0.6	0.6	-0.0	滋賀県	62,880	63,302	0.7	
京都府	26.7	22.0	-4.7	京都府	2,811,790	2,352,859	-16.3	
大阪府	37.6	33.2	-4.5	大阪府	3,963,569	3,542,606	-10.6	
兵庫県	4.8	4.1	-0.7	兵庫県	504,269	435,165	-13.7	
奈良県	6.9	5.9	-1.0	奈良県	728,536	629,837	-13.5	
和歌山県	0.6	0.7	0.0	和歌山県	68,033	71,283	4.8	
鳥取県	0.2	0.3	0.1	鳥取県	22,909	31,144	35.9	
徳島県	0.2	0.2	0.1	徳島県	16,281	24,359	49.6	
運輸局ベース	25Q1	26Q1	前年比伸び率	運輸局ベース	25Q1	26Q1	前年比伸び率	
北海道	10.8	11.4	0.6	北海道	1,137,658	1,217,418	7.0	
関東	52.6	51.6	-1.0	関東	5,538,338	5,512,822	-0.5	
中部	10.4	9.5	-1.0	中部	1,099,796	1,011,668	-8.0	
近畿	40.1	35.8	-4.3	近畿	4,230,830	3,824,885	-9.6	
九州	11.1	12.6	1.5	九州	1,172,233	1,349,792	15.1	

出所:JNTO『訪日外客統計』及び観光庁『インバウンド消費動向調査』より筆者推計。

表 3 費目別訪日外国人消費単価の比較：関西 2 府 4 県

		費目別 (7区分)						
		消費単価	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他
2025年1-3月期 (万円/人)	滋賀県	3.4	1.1	0.9	0.1	0.6	0.5	0.0
	京都府	4.9	1.9	1.4	0.2	0.2	1.1	0.0
	大阪府	9.9	2.7	2.2	0.2	0.5	3.8	0.0
	兵庫県	4.2	1.4	1.3	0.1	0.1	1.2	0.0
	奈良県	1.1	0.2	0.3	0.0	0.1	0.4	0.0
	和歌山県	4.6	1.8	1.2	0.2	0.1	0.9	0.0
	2府4県	6.9	2.1	1.7	0.2	0.3	2.4	0.0
2026年1-3月期 (万円/人)	滋賀県	3.9	1.0	1.1	0.1	0.1	1.2	0.0
	京都府	5.3	2.1	1.4	0.2	0.2	1.1	0.0
	大阪府	9.0	2.7	2.1	0.2	0.4	2.7	0.0
	兵庫県	3.9	1.4	1.1	0.1	0.1	0.9	0.0
	奈良県	0.9	0.2	0.4	0.0	0.1	0.2	0.0
	和歌山県	4.3	1.9	1.0	0.2	0.1	0.6	0.0
	2府4県	6.6	2.2	1.6	0.2	0.3	1.8	0.0
前年比(%)	滋賀県	16.1	-5.6	18.7	13.0	-76.2	129.7	-
	京都府	7.1	13.5	0.0	1.0	31.1	-7.8	-
	大阪府	-8.8	0.8	-4.8	22.4	-17.7	-27.8	-
	兵庫県	-7.6	6.9	-14.7	-14.3	38.3	-26.4	-
	奈良県	-13.7	11.4	6.9	13.0	23.9	-51.3	-
	和歌山県	-7.3	5.4	-14.9	-10.5	91.5	-28.7	-
	2府4県	-4.2	5.5	-3.1	13.4	-7.4	-23.6	-

訪日外客消費額	25年1-3月期 (万円)	26年1-3月期 (万円)	前年同期比 (%)
関西2府4県	54,648,182	46,580,004	-14.8
全国	228,030,000	233,730,000	2.5

(注)全目的ベース。2025 年は確報(上図も同様)。消費単価にはパッケージ参加費が含まれる。

出所:観光庁『インバウンド消費動向調査 参考表都道府県別集計』より筆者作成。

表 4 2026 年 5 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	5月	5月		1～5月	1～5月	
総数	3,693,587	3,559,900	-3.6	18,140,590	17,936,000	-1.1
総数(中国除く)	2,903,498	3,246,900	11.8	14,220,051	16,218,600	14.1
韓国	825,883	951,300	15.2	4,053,738	4,888,000	20.6
中国	790,089	313,000	-60.4	3,920,539	1,717,400	-56.2
台湾	538,428	616,800	14.6	2,699,729	3,301,800	22.3
香港	193,044	207,900	7.7	1,104,292	1,084,200	-1.8
タイ	108,106	98,800	-8.6	628,410	656,500	4.5
シンガポール	63,257	76,600	21.1	276,527	310,200	12.2
マレーシア	51,725	72,200	39.6	295,855	341,400	15.4
インドネシア	52,280	56,800	8.6	284,515	327,000	14.9
フィリピン	82,723	85,000	2.8	384,912	414,400	7.7
ベトナム	59,263	58,000	-2.1	311,703	340,000	9.1
インド	43,040	56,500	31.3	142,503	174,200	22.2
豪州	78,874	82,300	4.3	507,822	529,400	4.2
米国	311,933	333,700	7.0	1,356,277	1,467,200	8.2
カナダ	66,346	69,400	4.6	293,814	318,900	8.5
メキシコ	15,080	19,700	30.6	71,601	96,300	34.5
英国	52,095	55,200	6.0	237,517	250,500	5.5
フランス	46,049	48,500	5.3	182,626	199,200	9.1
ドイツ	42,268	50,200	18.8	178,900	197,500	10.4
イタリア	24,956	28,100	12.6	115,891	113,800	-1.8
スペイン	20,799	21,900	5.3	80,101	85,500	6.7
ロシア	19,152	24,600	28.4	71,744	91,600	27.7
北欧地域	15,543	17,400	11.9	76,095	87,200	14.6
中東地域	23,248	39,000	67.8	98,370	105,600	7.3
その他	169,406	177,000	4.5	767,109	838,200	9.3

表 5 2026 年 3 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)	2025年	2026年	伸率 (%)
	3月	3月		3月	3月		3月	3月		3月	3月	
総数	3,497,755	3,619,159	3.5	3,149,434	3,221,476	2.3	109,349	107,138	-2.0	238,972	290,545	21.6
韓国	691,725	795,612	15.0	654,924	756,966	15.6	15,062	15,276	1.4	21,739	23,370	7.5
中国	661,817	291,686	-55.9	548,863	173,419	-68.4	25,407	19,546	-23.1	87,547	98,721	12.8
台湾	522,886	653,346	24.9	504,743	633,750	25.6	8,378	8,868	5.8	9,765	10,728	9.9
香港	208,369	216,271	3.8	203,330	211,334	3.9	2,225	1,976	-11.2	2,814	2,961	5.2
タイ	148,226	160,861	8.5	141,851	154,420	8.9	2,938	2,712	-7.7	3,437	3,729	8.5
シンガポール	65,297	70,983	8.7	62,450	67,821	8.6	2,176	2,414	10.9	671	748	11.5
マレーシア	53,109	76,603	44.2	50,366	73,150	45.2	1,192	1,361	14.2	1,551	2,092	34.9
インドネシア	60,599	82,792	36.6	49,315	65,871	33.6	1,003	1,219	21.5	10,281	15,702	52.7
フィリピン	72,333	90,122	24.6	60,408	75,746	25.4	5,541	8,043	45.2	6,384	6,333	-0.8
ベトナム	64,123	92,051	43.6	17,854	18,836	5.5	3,299	3,474	5.3	42,970	69,741	62.3
インド	32,967	41,438	25.7	24,030	32,388	34.8	5,079	4,934	-2.9	3,858	4,116	6.7
豪州	84,761	96,887	14.3	81,465	93,405	14.7	2,090	2,249	7.6	1,206	1,233	2.2
米国	342,752	375,948	9.7	324,164	356,861	10.1	11,745	11,803	0.5	6,843	7,284	6.4
カナダ	68,083	79,901	17.4	65,841	77,588	17.8	1,095	1,123	2.6	1,147	1,190	3.7
メキシコ	14,612	24,756	69.4	13,969	24,074	72.3	287	281	-2.1	356	401	12.6
英国	58,140	70,231	20.8	53,188	65,025	22.3	3,032	2,930	-3.4	1,920	2,276	18.5
フランス	36,478	40,286	10.4	32,145	35,491	10.4	2,033	2,437	19.9	2,300	2,358	2.5
ドイツ	48,064	58,542	21.8	43,984	54,053	22.9	2,601	2,849	9.5	1,479	1,640	10.9
イタリア	25,494	31,484	23.5	22,969	28,891	25.8	1,548	1,511	-2.4	977	1,082	10.7
ロシア	18,823	23,684	25.8	17,497	22,329	27.6	597	659	10.4	729	696	-4.5
スペイン	17,826	24,263	36.1	16,653	22,991	38.1	705	689	-2.3	468	583	24.6
中東地域	24,077	16,741	-30.5	22,563	15,752	-30.2	945	484	-48.8	569	505	-11.2
その他	177,194	204,671	15.5	136,862	161,315	17.9	10,371	10,300	-0.7	29,961	33,056	10.3

注：目的別訪日外客数の定義については、レポート No.79 図 3 の注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2026 年 6 月 17 日付より筆者作成(表 4～5)